

書家 井上有一 常設展



塔 B(1971 年) ©UNAC

寒川町ゆかりの文化人である書家 井上有一の書作品、関連書籍を常設展示します。寒川総合図書館では、愛好家、教員時代の同僚、地域の方々の寄贈により井上有一に関する書籍類を数多く所蔵しています。

寒川総合図書館 2階参考閲覧室

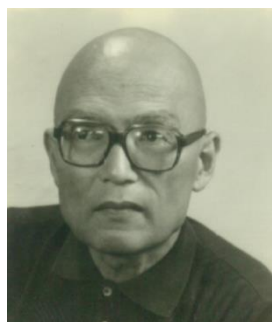
神奈川県高座郡寒川町宮山 135-1 電話 0467-75-3615

[開館時間] 火～金 9:00～19:00 土・日・祝日 9:00～17:00

[休館日] 月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始、蔵書点検日

2018 年
6 月 17 日
展示開始

井上有一【いのうえ ゆういち 1916-1985】



伝統的な書道の形式に縛られず、書を用いて現代的な芸術の表現を追求した書家。独特な作風で、1960 年代から欧米で作品が展示され、戦後日本を代表する現代芸術家として海外で高い評価を受ける。没後 30 年を過ぎた現在も国内外で展覧会が開催されている。作品は京都国立近代美術館、国立国際美術館、茅ヶ崎市美術館、アメリカ・メトロポリタン美術館等に収蔵されている。

井上有一は学校の教員であり、青山師範学校を卒業後、東京の下町にある横川尋常小学校の教員をしていた。1945 年に東京大空襲で被災。戦後、茅ヶ崎へ移り住み、茅ヶ崎市内の茅ヶ崎小学校、第一中学校、松林中学校に勤務したのち、1966 年に寒川町立寒川中学校教頭、1971 年に寒川町立旭小学校校長になり、1976 年に定年退職。寒川町内に建てた自宅兼アトリエ「狼屋敷」で晩年まで作品制作を行った。